



川野先生のご退任に寄せて

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-08-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉岡, 丕展 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/10607

川野先生のご退任に寄せて

吉 岡 丕 展

川野信廣先生は、本年三月末日をもって大阪府立大学総合科学部を定年退職されることになりました。

先生のご退任は私たちにとって淋しいことではありますが、今日にいたるまでお元気に研究と教育に専念されましたことを心からお慶び申し上げます。ここに、同じく定年退職されます高博教先生とお二人のために、ご退任記念の論集を編み、感謝のしるしといたします。

川野信廣先生の経歴と業績は、本記念号に掲載されている通りです。

川野先生は、昭和37年本学に赴任され、以来30数年間、シェークスピアを中心に、主としてイギリス文学における比喩、心象、文学的想像について研究・教育に従事されました。言葉の一つ一つを丹念に調べ、検討しながら、英詩を解説する先生のご研究は、内外で定評があり、授業においても学生に深い影響を与えられました。

川野先生は旧制中学二年生の時、終戦を迎えましたが、先生が生まれ育った佐伯市は、文化的志向の高い城下町であり、戦争中においても、少なくとも生徒の側から見れば、英語の学習、外国文学や音楽の鑑賞について制限を感じなかった、との証言をいただいております。戦中、戦後の時代に、先生は、映画、音楽、演劇、講演など、郷里の提供するあらゆる文化的機会を吸収されました。厳しい、近寄りがたい感じの先生でしたが、時折、共同研究室などでくだけてなさる、ユーモアとウィットに溢れたお話を楽しく伺ったものです。そうした会話や、披露される様々な話題からうかがわれるご造詣も、この郷里での少年時代に培われたものようです。

この三十余年、研究に教育に、ほぼ無欠勤で、常に変わらぬお元氣な先生の姿を拝見しましたが、これは高校での円盤投げの選手時代に養われた体力

に支えられたものと見受けられます。

今後も、ますますのご活躍とご健康をお祈りする次第です。